

## 第5回 防衛施設整備に関する有識者会議 議 事 概 要

### 1 日時等

- (1) 日 時：令和3年10月14日（木）10時00分～11時30分
- (2) 場 所：防衛省庁舎D棟7階第1会議室
- (3) 出席者：

#### 【委員】

- 藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科教授） [会長]
- 上野 武 （千葉大学名誉教授） [会長代理]
- 谷口 綾子 （筑波大学大学院システム情報工学研究科教授）
- 成田 一郎 （（公社）日本ファシリティマネジメント協会専務理事） ※欠席
- 横田 弘 （北海道大学名誉教授）

#### 【防衛省】

大臣官房施設監、施設計画課長、施設整備官、提供施設計画官、施設技術管理官  
施設政策室長、契約制度企画室長、防護施設研究室長

### 2 議 題

防衛施設整備の概況について

### 3 議事概要

防衛施設整備の概況について、防衛省から説明した後、討議を実施。

### 4 討議概要

- (1) ファシリティマネジメント（FM）について
- (委員) 米国では軍事技術を民間・公共部門に転用することが多いことから、FM分野も含め、米軍との交流・勉強会は有益ではないか。
- (防衛) 米国との協力については、各プロジェクトを進めていく観点から、米軍の施設部門と調整を行い、必要な技術協力を行っている。現時点では、必ずしもFM分野まで範囲を広げた協力とはなっていないことから、今後、情報収集等を行っていく。
- (委員) 日本ファシリティマネジメント協会では、早くからテレワークやフリーアドレスを推進し、超過勤務縮減、作業の効率化に寄与。結果的にコロナ期においても大きな影響なく業務を継続。防衛施設の整備においても、全国的に業務量が増える中、これらを積極的に取り入れ、効率化を図るべき。
- (防衛) 施設整備業務の効率化については、事業量が増大する中、効率的に業務を進めていくため、テレワークやフリーアドレスなどの取り組みを進めていきたい。必要なシステム等の構築に鋭意努力。

## (2) 老朽化対策について

(委員) 老朽化した施設の改修、建替えに係る経費の防衛予算に占める割合は。予算全体に占める割合は多くないと思うが、きちんとマネジメントをして、ライフサイクルコストを下げる必要がある。

(防衛) 防衛省として、効率的に老朽化対策を行うために、現在、施設のデータベース化に取り組み、自衛隊施設全体について、予算の平準化を図りながら計画的に実施していく。

## (3) 施設整備における環境政策について

(委員) 有事の際にエネルギーを自給する方法はもちろんのこと、石油に依存しないエネルギーを追求する方法についても考えておく必要がある。

(防衛) 基本的に商用電力により供給。重要施設や災害時の対応として非常用発電機を各駐屯地、基地に導入。

再生可能エネルギーについては、例えば、太陽光パネルの設置が考えられる。温室効果ガスの削減に対して、防衛省として取り組む必要があり、部隊の運用と調整しながら検討していく。

## (4) 施設の耐震化対策及び防護性能の向上について

(委員) 耐震対策の目標に対する達成率は。

(防衛) 防衛省として、耐震化促進法を踏まえ、3階建てかつ1,000㎡以上の庁舎等について令和2年度までに少なくとも95%の耐震化を図ることを目標とし、この目標に対して95.5%を達成した。

(委員) 有事の際の自衛隊施設の防護性能の向上にどのように取り組んでいるのか。

(防衛) これまでも様々な脅威に対して、適宜、必要な施設に防護性能を持たせるべく、基準類の整備等に取り組んでいるところ。さらに今後、新たな脅威に対しても対応できるよう調査研究を進めている。

## (5) 重要土地等調査法について

(委員) 基地周辺の土地を外国企業が購入している件について、リスクが顕在化してから法案成立までに時間がかかりすぎているのでは。

(防衛) 土地等の利用状況を国ないし自治体が把握すべきとの考えは、ほぼ共有されているが、一方で、何を対象に、どこまで何をやるのかといった部分で、大きな開きがあったところが長い時間がかかった原因。

様々な意見がある中で、今回の法案は第一歩であり、法案を施行する中で実績を重ねていきながらアップデートしていくことであると認識。

(6) 国土強靱化計画等について

(委員) 中期防衛力整備計画のように施設整備に関しても長期計画をしっかりと立て、かつ数字付きで何カ年でこれだけやるとしておくことがとても大事。

(防衛) 中期防衛力整備計画に沿う形で、施設整備に関しても計画的に実施している。

(委員) 国土強靱化の基本的な理念として、脆弱性の評価を行うことがある。防衛施設に関しても南海トラフ地震のような外力がかかった場合、どれくらい機能が落ちるか、また、これくらい投資しておけば、この程度ですむというものを検討しておく必要がある。

(防衛) 津波対策に関しては、海沿いにある基地等60数か所のシミュレーションを行い、設計基準を策定していることから、被害額や復旧額、対策に係る費用について検討する。

(委員) 限られた予算の中で多くの施設のマネジメントをするためには、優先順位をつけて実施していく必要。そのような指標はあるのか。

(防衛) 耐震化・老朽化といった観点から陸・海・空の各自衛隊と議論をして、優先順位の指標を作っている。

(委員) 優先順位をつけていくということは非常に大切。

自然災害等の外力による被害額が、事前に対策を施すことにより相当減ずることが高い蓋然性で起こり得るものかというためには、先ほど申し上げたような脆弱性の評価を行っておくことが大事。

以 上